

4月21日 避難訓練でのお話

校長先生から、大事なお話をします。

自分の命は自分で守ります。命がなくなると何もできません。
そして自分の命があればいずれ、人の命も助けることができるかもしれません。

そのために今日は西小の全員で避難訓練を行いました。

訓練とは、本当の時はこうだろうと考えて行う練習です。
人は、練習をすると上手になります。
字も計算も音読もそうです。ですから練習は大切です。

でもあと一つ大事なのは、「真剣に」行うことです。
真剣に行わなければ、練習になりません。
間違った乱暴な字をいくら書いても練習にはなりませんからね。

今から4年前の11月、香川県沖で修学旅行中の6年生を乗せた船が沈没しました。
ドンと大きな音が鳴り、電気が消え、はじめその6年生たちはとても動揺したと言います。
けれどその後は冷静に大人の指示をよく聞き、救命胴衣と言って水の中で浮き輪代わりになる服を着て、海に浮いたり、沈んでいく船の一部に並んで立ったりして救助を待っていました。

近くの漁船にいた漁師さんが事故に気づいて急いで救助に向かい、「大丈夫だから、一人ずつ泳いでこい」と呼びかけると、大層怖いに違いないのに、6年生はその指示通りに一人ずつ泳いで漁船にきました。
そして、1人、また1人と漁船に救助され、救助された子たちは、これから船に向かおうとする友達に、「大丈夫だから、頑張れ」と励ましていたとのことでした。
そして、全員が漁船に救助されたときには、みんなで大きな声で礼儀正しく、漁師さんに「ありがとうございました」と言ったと言います。

このような海での事故の訓練は、この6年生たちもしているとは思いません。
でも、冷静に、指示をよく聞いて行動する。これはどのような災害でも事故でも変わりません。
自分の命を守るため、指示通りに懸命に泳ぎ、また、友達が命を落とさないよう懸命に励みます。

この姿こそ、普段の避難訓練が生かされた、訓練の成果と言えると思います。
災害や事故の時に、いつも頼りになる大人やお兄さんお姉さんがいるとは限りません。

もしもの時がないことが一番なのですが、
地震の多い日本、海に囲まれた日本、
近くを大きな川が流れるこの地区で生きていくときに、何らかの災害や事故に巻き込まれることはとても簡単に想像できます。
今日はそのときのための訓練でした。

皆さん、今日の訓練のことを心に留めてください。

「自分の命は自分で守る」

1年生も6年生もすべての皆さんが。
これで校長先生のお話はおしまいです。